

## 平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : オホーツク地区  
2 事例報告学校名 : 雄武町立雄武小学校  
3 報告者 : 校長 平野 秀樹  
4 キーワード : 町内各校と連携した取組
- 

### 1 はじめに

雄武町はオホーツク管内の最も北に位置し、オホーツク海の豊富な海産資源と、広大な大地を利用した畜産資源に恵まれた人口は約4,500人の町である。

雄武町でも小規模校が統廃合され閉校が進んできたが、まだ4校の小学校があり、それぞれの地域や学校規模の特性を生かした教育活動を行っている。その中でも本校は、児童数162名、学級数は通常の学級6学級、特別支援学級3学級の編制で、町の中心校として位置している。

また、小学校・中学校・高等学校が隣接した一面に立地しており、それぞれに芝生を張った広大な校庭を有する恵まれた教育環境にある。

本稿では、本校で取り組んでいる町内各校との連携の取組と今後の方向について探っていきたいと思う。

### 2 連携の取組

雄武では、町内の全学校教職員・高等学校の関係教職員・教育委員会職員で組織する雄武町学校教育振興推進協議会（雄教振）が設立されている。ここには各教科等の研修部会の他に、特別委員会として、交流事業委員会と小中高連携委員会が組織され、学校間連携を進める下地が整っており、実際に連携した取組を行ってきた。

また、町内の定例校長会議・教頭会議には高校の校長・教頭も参加し、毎月顔を合わせて交流する機会がある。中学校や高校からの「出前授業」をはじめ、異校種連携が、更に促進されるよう管理職間でも共通理解を図り、管理職が積極的に各校を訪問し授業を参観すると同時に、声掛けをして取組の強化を図ってきた。

#### 【交流事業委員会の取組】

交流事業委員会は、町内全小学校の同一学年児童が一堂に会し、様々な交流を通して個人及び学校間の親睦と連携を深めることを目的に発足した。

学年によって、各校の教師が担当する教科を決めて、持ち回りで授業を行うなど、普段と違う授業が展開され、子どもたちにとっても新鮮な刺激と久しぶりに会う友人との親睦を深めている。



#### 【小中高連携委員会の取組】



昨年までは、学習規律や学力向上の取組の交流を主として行ってきた。今年度は各学校の授業を参観することに重点を置き、各校の参観日に合わせて、担当者だけでなく、できるだけ多くの教員が各校の授業を参観するように促してきた。本校の実践交流会には、雄武高校からも2名の若手教員が研究授業と研究協議に参加し、活発な意見の交流がなされた。

### 【小・高交流会】

毎年、高校1年生と3・4年生の交流会を実施している。高校では1年生のピア・サポート実践を兼ねている。本校児童は、高校生と交流の中で、高校生との関わりを深めるとともに、自分を見つめ直す機会とすることを目的としている。

高校生の考えたプログラムに従い、楽しんで参加している。



### 【小・中交流会】

4月から雄武中学校に入学する小学6年生に、中学校の学習や生活の見通しをもたせるとともに、中学生と交流することにより、中学校生活に希望をもたせ、よりよい心理的な準備をさせることを目的に、毎年開催している。

### 【長期休業中の補充学習】

長期休業中の補充学習には、地域ボランティアの募集をしている。地域の方の他に大学生も支援に来てくれる。今年度は高校のボランティア部の部員が10名ほど協力してくれ、学習がなかなか進まない児童へ個別指導を充実することができた。



### 【出前授業・授業交流】

・学芸会に向けてのダンスの練習では、中学校の体育の教員が出向いてくれ、2年生児童にコツを伝授してくれた。

・理科の学習では、冬休み前に中学校の理科の教員が、小学校で実験をしてくれ、児童の興味・関心を喚起してくれた。

・道徳や性教育、外国語など雄教振の各部会での研究授業も活発に行われ、町内各校の教員が互いに授業を見合う場が数多く設けられた。



## 3 成果と課題

本校で行ってきた町内各校との交流・連携の取組に改善を加え、児童にとっても教員にとっても充実したものとなってきた。本校の参観日には、他校から管理職や教員が来校している姿が多くみられるようになった。また、これまであまり実施してこなかった中学校の教員による出前授業も実施できた。

課題としては、校長・教頭レベルでの連携から、各校の教員レベルでの協力・連携につなげていくことが必要である。また、人事異動による教員の入れ替わりが多くある中、実りある連携の実績を積み上げていくことも重要となる。

## 4 おわりに

小学校という子どもの成長段階を考慮しつつも、過度にとらわれることなく、保育所を含めた小・中・高の教育に携わる全ての校種と様々な連携することで、教育活動の更なる充実を図っていきたい。